

ホスピタルストリート

No.14/
Hospital Street 2025

香取おみがわ医療センターの 栄養サポートチームのスタッフを紹介します



栄養サポートチーム (NST) とは、患者さんへ最適な栄養管理を提供するために、多職種で構成された医療チームです。栄養はすべての治療の要であり、栄養不良であれば、いかなる治療も効果に結びつきません。

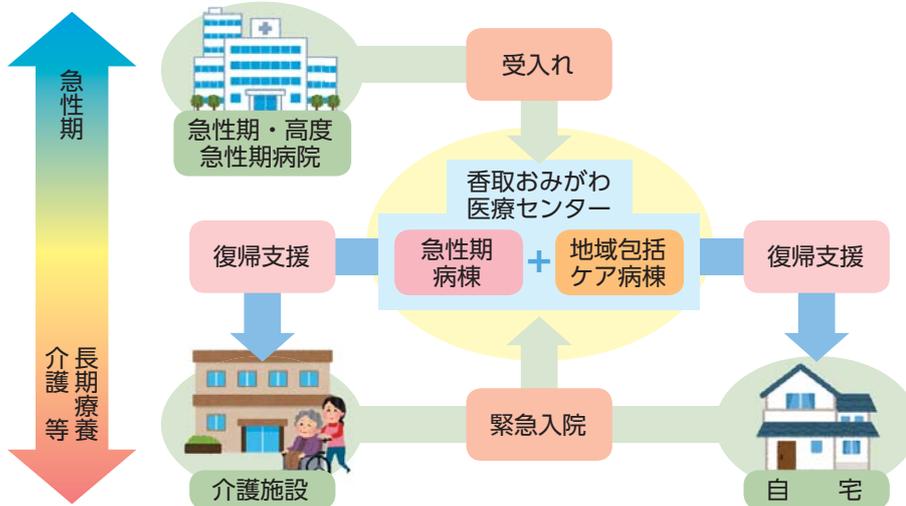
当医療センターでは、平成15年にNSTを発足し、翌年にはNST稼働施設としての認定を受けました。以来、安全で質の高い栄養管理を通じて患者さんの治療を力強く支え、各職種の専門性を活かしながら、患者さんの回復を高めることを目指しています。

《各職種の役割》

医師	低栄養に至った病態の把握と問題点の提起を行い、栄養療法の方向性を示す。
看護師	患者家族に最も近い存在として、実現可能なアドバイスを行いながら総合評価につなげる。
薬剤師	適正と考えられる輸液処方の確認と、医薬品の副作用に関する情報提供や適正使用の提案を行う。
管理栄養士	過不足のある栄養素を評価し、嗜好、食形態、経腸栄養剤の選別と提案を行う。
臨床検査技師	栄養状態の指標となる検査データを管理し、患者さんごとに集計して情報を共有する。
理学療法士	患者さんの病態や栄養状態に応じて、身体活動を通じた体力と筋肉量の維持・向上を図る。
事務員	事務手続きや情報提供を担当し、患者さんの入退院時の窓口となる。

住み慣れた地域で

香取おみがわ医療センターの機能



地域包括ケア病棟 3つの役割

①急性期治療後の受入れ
急性期の治療を終えたものの、すぐに自宅や施設での生活に不安がある患者さんに対して、在宅復帰に向けて、医学管理、看護、リハビリテーションを行います。
②在宅や施設生活への復帰支援
症状・状態に合わせた介護サービスの提案をし、退院後の生活が安心して送れるようにサポートします。
③緊急時の受入れ
発熱や痛みの悪化、転倒などで日常生活に支障がある人を受け入れ、病状の安定化に向けた支援を行います。

入院生活における支援

●地域包括ケア病棟

地域包括ケア病棟の概要

西病棟看護科 副看護師長

小久保 香苗

香取おみがわ医療センターでは、5月から地域包括ケア病床を50床に増床し地域包括ケア病棟としてスタートしました。地域包括ケア病棟は、「治す医療」から「支える医療」へとつなぐ役割を担う病棟です。住み慣れた自宅や施設等へ移行できるよう患者さん一人ひとりの生活背景に目を向け、安心して地域で暮らし続けられるよう多職種が連携し医療と支援を提供します。入院期間は最長60日ですが、当医療センターでは、40日以内の退院を目標にしています。必要な医学管理、看護、リハビリテーションを行いながら、多職種や地域と協働し、1日も早く安心して退院できるよう支援します。



住み慣れた自宅や施設等へ移行できるよう患者さん一人ひとりの生活背景に目を向け、安心して地域で暮らし続けられるよう多職種が連携し医療と支援を提供します。入院期間は最長60日ですが、当医療センターでは、40日以内の退院を目標にしています。必要な医学管理、看護、リハビリテーションを行いながら、多職種や地域と協働し、1日も早く安心して退院できるよう支援します。

●リハビリテーション

医療から生活へつなぐ支援

リハビリテーション科 理学療法士 上席主任技師

菅谷 和広

急性期治療を終えた患者さんが、自宅や施設へ円滑に移行できるよう支援しています。医師、看護師、作業療法士、ソーシャルワーカーなど多職種と連携し、患者さんの生活背景や目標に応じたリハビリテーションを提供します。

整形外科術後の患者さんには、翌日から関節可動域訓練、退院に向けて日常生活の指導、新たに導入した自転車や筋力マシンを使い、体力・筋力訓練も実施します。

身体機能が低下した内科患者さんには、早期離床、機能回復を促進するリハビリテーションを提供します。また、自宅退院への不安を払拭するため、必要に応じて自宅に訪問し、家屋調査、福祉用具の選定、日常生活の指導等を行い、医療から生活への切れ目ない支援を積極的に行っています。

切れ目のない支援を

退院後も安心して暮らせるための支援

●地域医療支援室

その人らしい生活の継続を支援するために



副看護部長 兼 地域医療支援室長

藤原 浩美

地域医療支援室は、入院治療を終えた患者さんが生活の場に戻った後も、適切な医療と必要な支援を受けながら、その人らしい暮らしや生き方を実現できるように支援する役割を担っています。

社会福祉士と入退院支援専任看護師は、患者さんやご家族の思いに寄り添いながら、地域のケアマネジャーや介護サービス事業者と連携し、生活上の困りごとに対応しています。また、訪問診療医と訪問看護師は、通院が困難な患者さんに対して、必要な医療やケアを自宅で提供しています。ケアマネジャーは、暮らしを支えるさまざまなチームのまとめ役として、患者さんの生活を総合的に支援します。

地域の中核病院にある地域医療支援室として、今後も地域の皆さんが切れ目のない医療と支援を受けられるよう、地域との連携を深めてまいります。

●訪問診療・訪問看護

住み慣れた場所で「自分らしく」過ごすために



地域医療支援室 訪問看護班 主任看護師

浪川 玲子

病気や障害を持っていても自分らしく過ごしていただけるように、自宅や施設を訪問し、看護サービスを提供しています。主なサービス内容は、在宅酸素や褥瘡処置、チューブ類の管理、清潔ケアや健康管理です。また、ターミナル看護や自宅での看取りにも対応しており、ご家族からの介護に関する相談もお受けしています。

病院が運営している訪問看護のため、外来受診や入退院の際にもスムーズに連携を取ることができ、また、医師の訪問診療も行っています。さらに緊急時の対応として、365日24時間いつでも電話で相談いただける体制を整えています。病院での入院生活とは異なり、在宅でその人に合わせたケアの提供を行うことで、長期的な療養生活を支援します。

●レスパイト入院のご案内

レスパイトとは、「一時的中断」「休息」「息抜き」という意味を持ちます。高齢化社会が到来し、介護が社会問題化しています。レスパイト入院は、介護をしているご家族が休息を取れるようにする制度です。介護保険によるショートステイが困難な人や医療管理が必要な人が在宅療養されており、介護者の事情（介護疲れ、冠婚葬祭、旅行など）により、一時的に在宅での介護が困難となった場合に、被介護者が当医療センターに短期的に入院できる仕組みです。

在宅療養を続けていくためには、介護者の心と体の健康も大切です。介護疲れによる症状が心身に現れる前に、早めに当医療センターの地域医療支援室にお問合せください。



夏に多い皮膚疾患の原因と予防法

皮膚科専門医 松澤 高光

高温多湿の夏には、皮膚疾患が起こりやすくなります。皮膚疾患の中には原因が分かるものもあり、予防も重要になります。

①水虫

水虫は真菌の一種である白癬菌（はくせんきん）の感染が原因で、不特定多数が利用する温泉や銭湯などの足ふきマットや床に存在することがあります。足についた白癬菌が皮膚の角質層に侵入（感染）するには24時間以上かかるといわれています。そのため、白癬菌がいる可能性のある場所に行った際には、ゆびの間も含めて足を洗い乾燥させることが感染予防に重要です。

②伝染性膿痂疹（でんせんせいのうかしん）

伝染性膿痂疹は、一般に“とびひ”といわれ、黄色ブドウ球菌、溶連菌などの細菌の感染が原因です。しばしば鼻の下から生じますが、鼻内は常在菌としてブドウ球菌がいることもあり、子供には鼻孔に指を入れないようにさせます。手洗いの励行、爪を短く切り、かいて皮膚を傷つけないようにすることも重要です。

③虫刺され

虫刺されは、虫除けスプレーの使用、肌の露出を避けることなどが予防になります。

新着情報

◆第3回市民公開講座「いつまでも自分らしく」を令和7年10月26日（日）に開催します。

“認知症の予防と共生へのヒント”

- 『今日から始める！認知症予防体操と暮らしの工夫』 作業療法士 穴澤 光
- 『お口の健康作りでできる認知症予防』 歯科衛生士 片山 裕環
- 『認知症について 診断と早期発見の重要性』 医師 大橋 健二
- 『もの忘れ外来の役割と受診のすすめ ～認知症と共に生きる地域づくりのために～』 看護師 小久保 香苗
- 『認知症初期集中支援チームとは』 看護師 菅谷 夏絵
- 『もの忘れ外来開設後の共生へのヒント』 医師 佐久間 勉



詳細が決まり次第、ホームページ等でご案内します。
※講演内容は変更となる場合がございますので、予めご了承ください。

◆帯状疱疹ワクチン予防接種について

対象者はお住いの市町村から費用の助成を受けて接種することができます。また50歳以上の定期接種対象外の人で接種を希望される場合は、任意接種の対象となります。

当医療センターでの接種は下記のとおりですが、詳細はホームページをご確認ください。

ワクチンの種類	乾燥弱毒生水痘生ワクチン「ビケン」	乾燥組換え帯状疱疹ワクチン「シングリックス」
接種回数	1回	2回
接種費用	7,920円（税込み）	21,890円（税込み）×2
助成額	各市町村によって異なりますので、詳細は各市町村のホームページをご確認ください。	

◆マスク着用をお願い

厚生労働省から令和5年3月13日以降、マスクの着用は個人の判断に委ねると発表されました。しかしながら当医療センターには、高齢者や基礎疾患がある人も多く来院・治療されることから、感染対策上、病院内では引き続きマスクの着用にご協力ください。

平日・日中の受診を
心がけましょう！



時間外診療は緊急性の高い救急搬送患者のために設置されています。

*夜間・休日を避け、平日の日中にかかりつけ医に診てもらいましょう。

